

NASC Classic Car Rally Series 2007



Season 2 Round 1



総距離 300kmで行なわれた シーズン2開幕戦をレポート

クルマ好きが本当に楽しめるイベントを目指して始められたNASCクラシックカーラリー・シリーズのRound 1が今年も開催された。このイベントは、大自然の中を走り、楽しみながら競い合うラリー。今回は、千葉～茨城を舞台に特徴のあるスタイルのクラシックカーが多数エントリーした。残念ながら天候に恵まれなかったが、早速その模様をレポートしよう。

PHOTO&REPORT / 林 和弘(カインドカンパニー)



筑波山の「パープルライン」から山頂を周って「フルーツライン」を下る。1時間程離れた「テボロンの森」にある大駐車場に設けられた連続CPを終えてから昼食を済ませた後は、コマ地図を頼りながら千葉県の大柴にある、NATS(自動車大学)に向かった

2月17日(土曜日)午前8時。晴天に恵まれた常磐自動車道下りの守谷サービスエリアのパーキングには、既に数台のクラシックカーが準備を整えていた。スタート時間を待ち焦がれた早着の貴兄達の姿がレストランに向かう。パーキングが徐々に週末の行楽地に出掛ける家族連れの車やバスで満車の状態になり始めた頃、参加車両が集合していた。シリーズ第2弾の開幕戦が、この満車状態のサービスエリアから始まるのだ。

午前9時。定刻通りにRound 1が開幕された。セッケン1番の並木ご夫妻のアルファ Romeo・ジュリアスパイダー(1926年式)がスタートすると、続いて1分間隔で次々と車両がスタートを切り、サービスエリア内に設けられた最初のCPを通過してから常磐道土浦北インターで一般道に入り、アップダウンと凸凹仕掛けのワインディングで有名な筑波山エリアの各CP

